

No.・区分	30304	ハード部門(共通)
タイトル	揚重機による荷吊方法の作業基準に伴う落下防止網の使用	
動機・改善前の状況	市街地等において、クレーン作業中の飛来・落下が重大災害を引き起こす可能性があり、玉掛け者の技術だけに頼らない誰でもできる他の方法を模索した	
改善・実施事項	クレーンでの揚重作業で飛来・落下災害を防ぐために考案	
改善効果	使用後の飛来・落下災害は皆無	
活動内容 改善事項の図、 写真		

Good Practice!

揚重機による荷吊方法の作業基準

平成16年11月
東京本店安全衛生委員会

〈作業前の注意事項〉

- ◎有資格者の確認
 - ・運転免許(6t以上・・・免許又は床上操作式クレーンは技能講習でも可、6t以下は技能講習、1未満は特別教育が必要)
 - ・玉掛け資格(1t以上・・・技能講習、1未満・・・特別教育)
- ◎玉掛けワイヤーの始業点検の実施
 - ・直径が7%以上細くなっているか
 - ・ひとよりの間で10%以上切断していないか
 - ・キンクしていないか
 - ・著しく型くずかしていないか
 - ・心線がはみ出していないか
 - ・腐食していないか
 - ・端末止め部に異常はないか
- ◎合図方法の確認・作業方法の決定、周知
- ◎立入り禁止位置の確認及び周知
- ◎所荷面の確認
 - 〈参考〉1. 単管パイプ-5.0m 13.6kg/本(2.7kg/m)
 - 2. サポート 2尺(約60cm) 6kg/本
 - 3. サポート 6尺(約180cm) 12.5kg/本
- ◎移動式クレーンの安全防止措置
 - ・アウトラガーの巻き出し
 - ・地盤強度(軟弱地盤では必ず養生のこと)
- ◎クレーンの始業前点検の確認

〈作業方法及び作業中の注意事項〉

- ・サポートについては雌雄を交互重ねとし(図1-(参照)、雌のエンドプレートが必ず外側になるようにする。
 - ・玉掛けワイヤーロープは2点吊りとする。(サポート、単管パイプを直通し吊りする時は添絞りを基本とする)
 - ・巻線1回分にて、2本/箇所での荷降下を完了する。
 - ・高差等に落下防止ネットの取り付け。(図1-1・2参照)
 - ・長尺物は積重ね防止対策として介繰ロープを使用する。
 - ・玉掛けワイヤーの掛かる所が鋭角になる場合は、充分な当て物をする。
 - ・地切り前(玉掛けワイヤーを掛った状態での玉掛け荷降下)として、各ワイヤーロープの張りの均一性、位置ずれ、吊り角度を確認する。
 - ・地切り後(床面より20~30cm吊り上げ)の玉掛け状態について、水平度・ワイヤーロープの角度(吊り角度60度以内)、張り具合、荷の状態を確認する。
 - ・吊り上げの状況を確認する
 - 1. 降下場所の状態は良いか
 - 2. 所荷の向きは良いか
 - 3. 台木の位置は良いか(ワイヤーが台木に挟まらないようになっているか)
 - 4. 巻下後の吊荷の安定は良いか
- ※玉掛けワイヤーロープは4分ワイヤーロープ以上を使用のこと
安全荷重 4分ワイヤーロープ 2本吊り(吊り角度60度)の場合2.2t
11520mmシャックル 2本吊りの場合 2.2t

図1-1

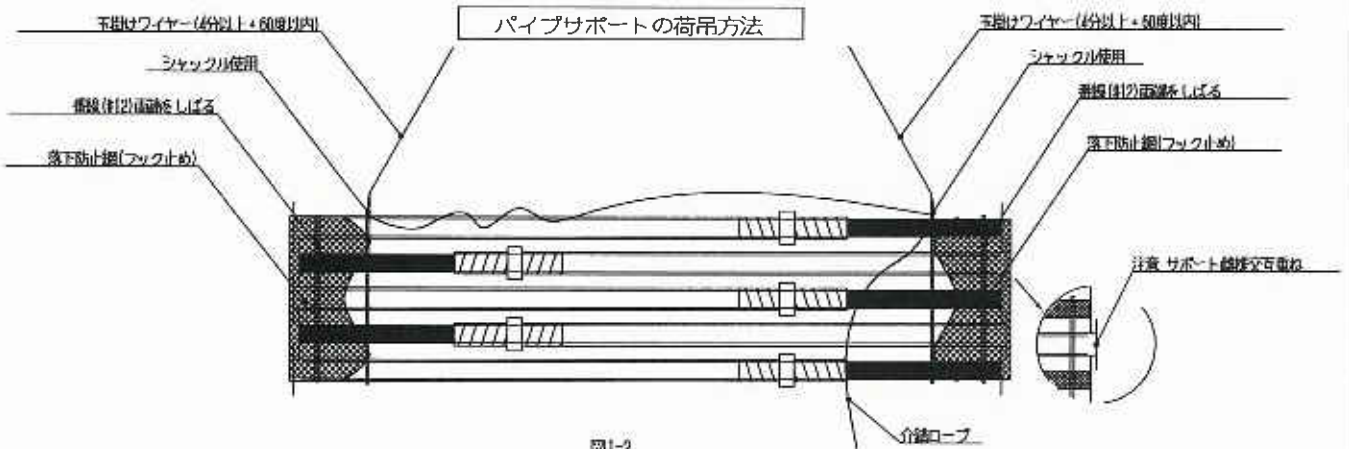


図1-2

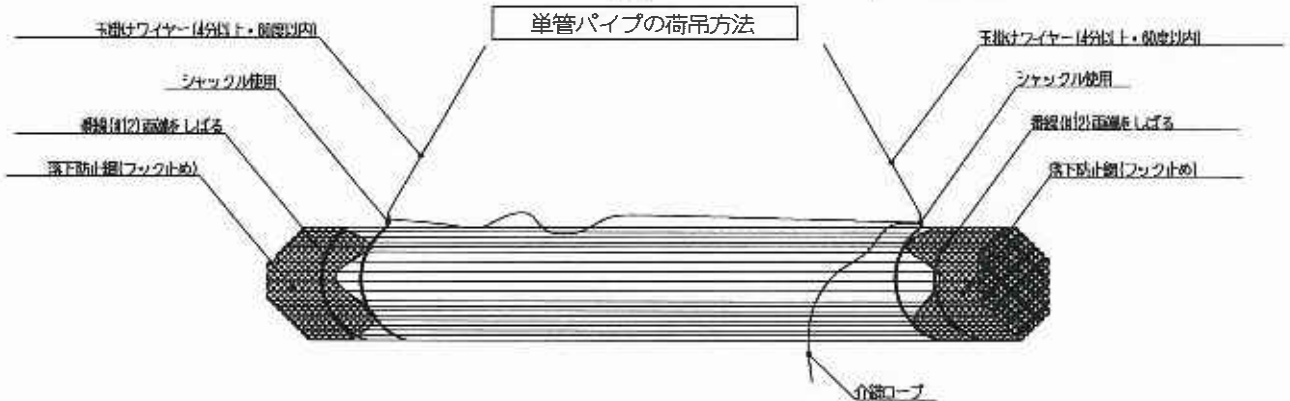


図1-3

